



企業の高付加価値化 成功事例集50

高付加価値確保のための具体的事例を多数掲載！

企業が利益を上げるためには、①「新ニーズへの商品企画」、②「それを実現させる技術や工夫」、③「①②をスリムで効率よく実現させる管理力」の3要素が重要で、その中でも特に①「新ニーズへの商品企画」に高付加価値を作り出すヒントが多くあります。

本書では高付加価値確保の事例を、ユーザーなどのニーズ毎に分類し掲載しています。潜在的なニーズを顕在化するヒントとして、是非ご活用ください。

6 見える化ニーズへの対応



見える化による付加価値確保事例を教えてください。



見える化は生産現場の改善手法として使われていましたが、転じて、わかりにくいことを目で見えるようにして理解しやすくするという幅広い意味で使われています。従いまして、事例の幅も広いですが、本書では2事例を紹介します。

⑧ リアルタイムの正確な情報共有で 顧客の高い信頼を獲得

橋梁点検の現場での調査者が必ずしも補修の現場技術に精通した人とは限らないので、より専門知識がある技術者との交信により、補修の詳細調査箇所や方法について、現場の状況を共有しながら調査を行います。

作業者のヘルメットにカメラをつけ リアルタイムで技術検討

(株)補修技術設計(本社：東京都江戸川区、資本金：900万円、従業員：14名)は、調査員のヘルメットにカメラを付け、その映像と音声を、タブレットを介して事務所とやりとりできるリアルタイム通信システムを開発しました。自社の技術者との連絡だけでなく、元請けにもソフトを配布し、元請けも現場の状況を確認、指示できるようにして元請けからの信頼を高めています。

デジタルカメラや三次元スキャナーの活用

同社では、デジタルカメラや三次元スキャナーを早くから導入し、調査現場への適用方法を試行錯誤しながら開発してきました。現在では、パソコン上で調査現場を再現できるようにデジタル画像や点群(コンピュータで扱う点の集合)で構造物を三次元化することにより、調査現場をよりわかりやすく再現し、安全性を確保し、精度がよく将来も利用可能なデータを取得できるようになりました。

その他のチェックポイント

同社では、赤外線サーモグラフィーを使った、温度差によるコンクリート劣化把握や高性能レーダーを使った鉄筋探査など可視化技術も駆使しています。